

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<6週> インフルエンザ - 全国平均の定点当たり報告数は2.1 / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<インフルエンザ> 第6週のインフルエンザ患者報告総数は9,869



病原体情報  
P.5

インフルエンザウイルス分離・検出報告 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV検出報告



速報  
P.6-7

今シーズン前期におけるノーウォーク様ウイルス検出状況 - 岩手県 / 小学校で発生したノーウォークウイルスによる感染性胃腸炎



海外感染症情報  
P.8-9

南アフリカでのコレラ流行 - 更新 / エボラ出血熱の流行 - ウガンダ、2000年8月～2001年1月



感染症の話  
P.10-12

カンピロバクター感染症  
*C. jejuni* が主な病原体であり、近年欧米諸国と同様、我が国においても発症例は増加傾向にある



読者のコーナー  
P.13

日本のコウモリにおける狂犬病ウイルス



グラフ総覧(6週)  
P.14-20



6週のデータ  
P.21-28



# 発生動向総覧

第6週コメント 2月16日集計分

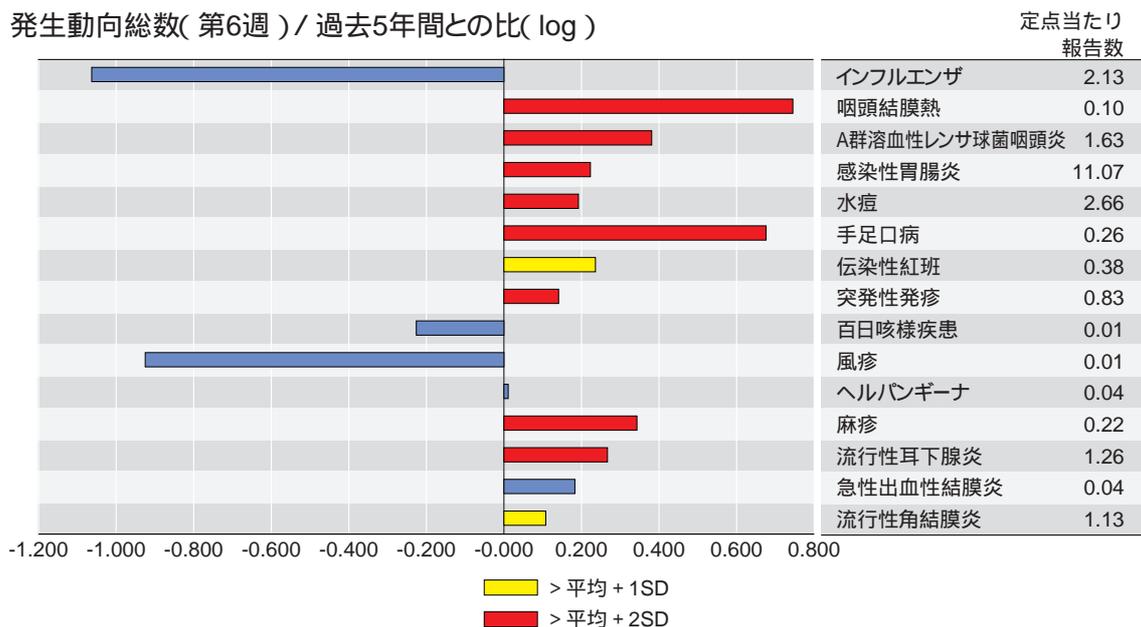
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例( 推定感染地: インド1例 )、細菌性赤痢10例( 推定感染地: 国内4例、インドネシア2例、インド、ベトナム、フィリピン、不明各1例 )、腸チフス2例( 推定感染地: インド、インドネシア各1例 )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症6例
- 4類感染症: アメーバ赤痢3例、ジアルジア症4例、ツツガムシ病2例、レジオネラ症1例
  - 急性ウイルス性肝炎9例
    - A型5例
    - B型2例\_\_感染経路: 性行為感染1例、不明1例
    - C型1例\_\_感染経路: 不明
    - EBウイルス1例
  - 後天性免疫不全症候群7例( AIDS3例、無症候性キャリア4例 )
    - 感染経路: 不明3例、性行為感染4例( 同性間3例、異性間1例 )
  - 梅毒5例( 早期顕症3例、無症候2例 )、デング熱1例( 推定感染地: スリランカ )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年にくらべかなり多くなっている。感染性胃腸炎は宮崎県で定点当たり報告数27、石川県で20、宮城県で19、鳥取県で17と多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県では定点当たり報告数が3.5となっており、大分県でも定点当たり報告数が1を超えている。これに伴って基幹病院定点より報告される成人麻疹も増加しており、高知県では14例の報告があった。麻疹( 成人麻疹を除く )の年齢階級別では1歳が最も多く、次いで7~12カ月に多かった。成人麻疹は18歳~29歳、35~39歳、45~49歳の年齢階級にみられ、26例中14例は10代の患者であった。流行性耳下腺炎と水痘も過去5年の同時期と比較して、定点当たり報告数がかなり多くなっている。水痘は宮崎県で定点当たり報告数8.1と多く、鳥取、山口、愛媛、福岡、沖縄の各県でも定点当たり報告数が4人を超えている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数5.7、熊本県で3.9と多くなっている。インフルエンザは全国平均の定点当たり報告数が2.1であった( 詳細は4ページ注目すべき感染症参照 )。咽頭結膜熱は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている( 14ページグラフ総覧、咽頭結膜熱参照 )。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数5.5、香川県で4.7と多くなっている。

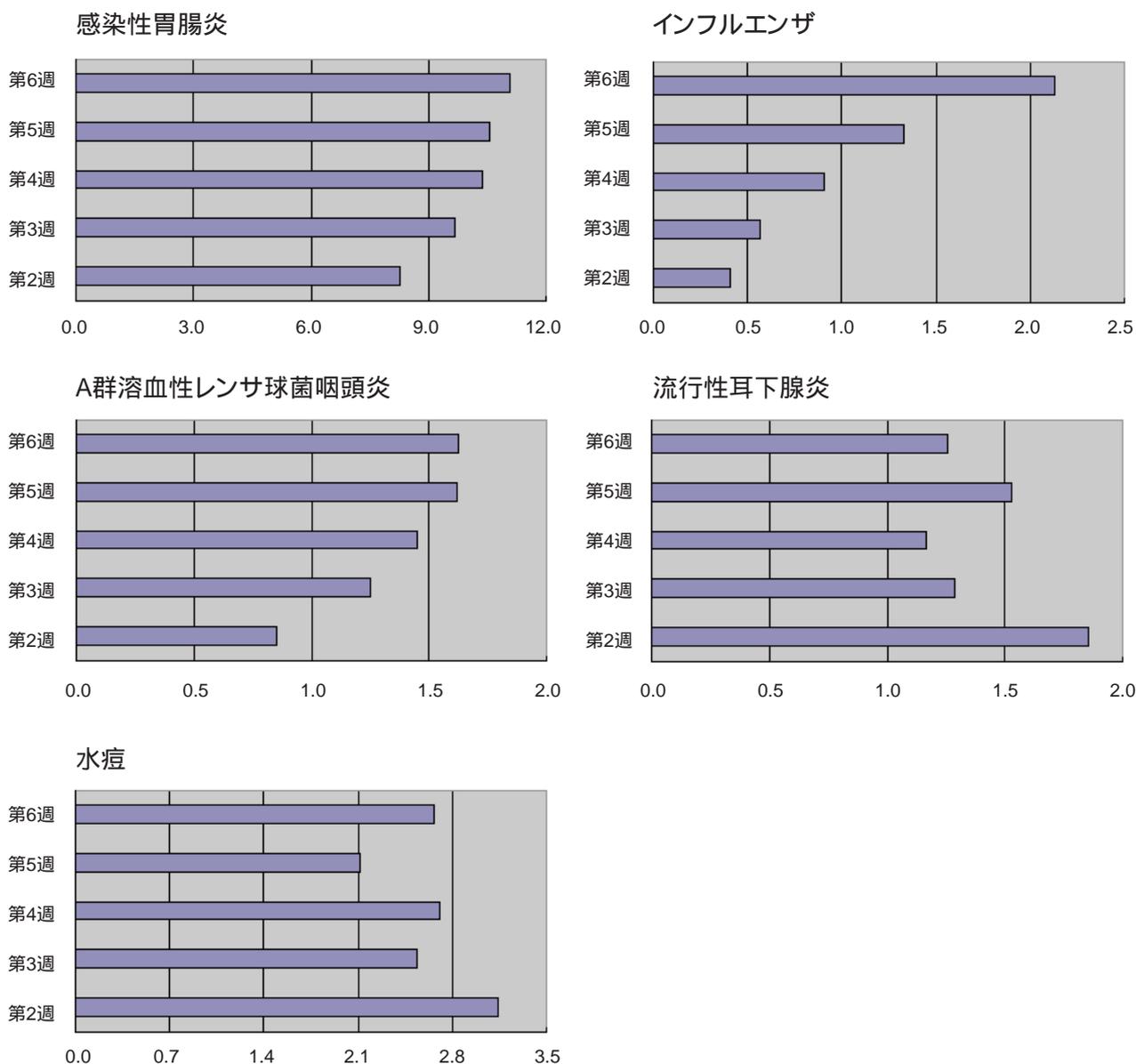
発生動向総数( 第6週 ) / 過去5年間との比( log )



当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

## 最近の注目疾患-5週間の動き

感染性胃腸炎は前週より定点当たり患者報告数が増加し、この5週間では全体として緩やかな増加傾向を示している。インフルエンザ患者は増加傾向にある。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり報告数が前週よりわずかに減少した。流行性耳下腺炎も前週より定点当たり報告数が減少した。水痘は前週より定点当たり報告数が増加した。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

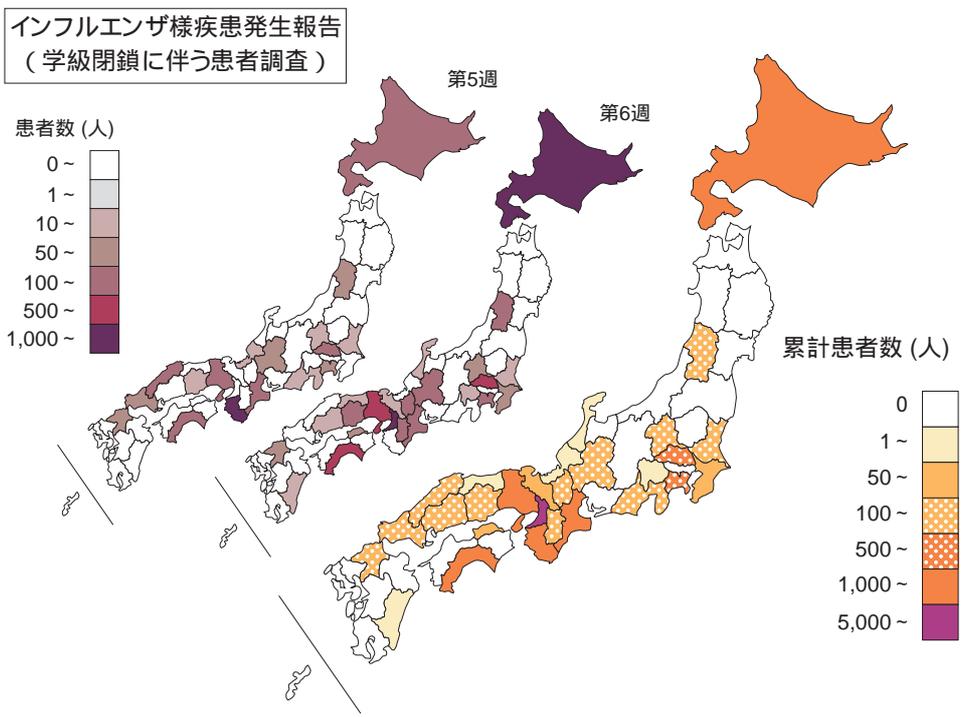
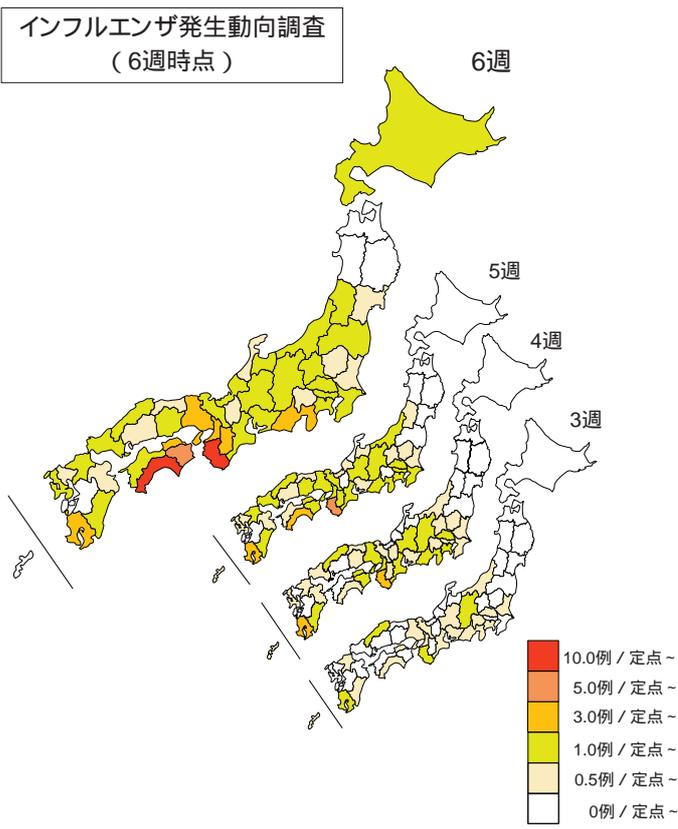
## インフルエンザ流行状況

2000/2001シーズンのインフルエンザ患者発生は、過去5シーズンに比べ立ち上がりは遅くなっていたが、2001年第5週になって流行開始の指標と考えられる定点当たり報告数1を超え、遅ればせながら流行期に入ったと考えられる。

2001年第6週のインフルエンザ患者報告総数は9,869で、この1週間の1医療機関当たりの平均インフルエンザ患者受診数(定点当たり報告数)は2.13であった。他の都道府県に先駆けて定点当たり報告数が多くなっているのは、和歌山県(定点当たり報告数13.4)、高知県(10.8)、徳島県(6.0)などである(都道府県別患者発生状況については右図参照。インフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては5ページ病原体情報参照)。

厚生労働省健康局結核感染症課のまとめによると、インフルエンザ様疾患発生報告数における学校欠席者数は、平成12年10月29日から平成13年2月10日までの累計で9,691人であり、昨年同期の223,897人に比べ20分の1以下となっている。

感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、2001年第6週には、和歌山県の2保健所と徳島県の1保健所にインフルエンザ流行警報が、高知県、和歌山県、兵庫県、北海道的、大阪府、奈良県の2保健所その他計21保健所にインフルエンザ流行注意報が発生している。





# 病原体情報

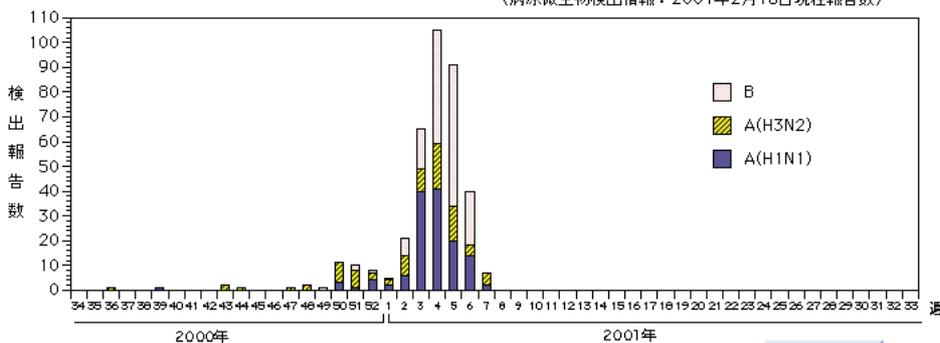
(2001年2月16日現在報告分)

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。

## インフルエンザ 2000/2001シーズン

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が134件、A/香港(H3N2)型が81件、B型が153件報告されている。最近では、A/ソ連(H1N1)型が第5週に20(札幌市、仙台市、福島県、千葉県、神奈川県、横浜市、三重県、大阪市、兵庫県) 第6週に14(札幌市、仙台市、茨城県、横浜市、静岡県、兵庫県) 第7週に2(横浜市) A/香港(H3N2)型が第5週に14(仙台市、山形県、茨城県、東京都、横浜市、大阪府、大阪市、奈良県、鹿児島県) 第6週に5(仙台市、東京都、石川県、兵庫県) B型が第5週に57(札幌市、横浜市、静岡県、三重県、大阪市、奈良県、和歌山県、高知県、福岡市、鹿児島県) 第6週に22(仙台市、横浜市、静岡県、三重県、大阪市、兵庫県、奈良県、高知県、福岡市、鹿児島県)が報告されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2000/2001シーズン  
(病原微生物検出情報: 2001年2月16日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。

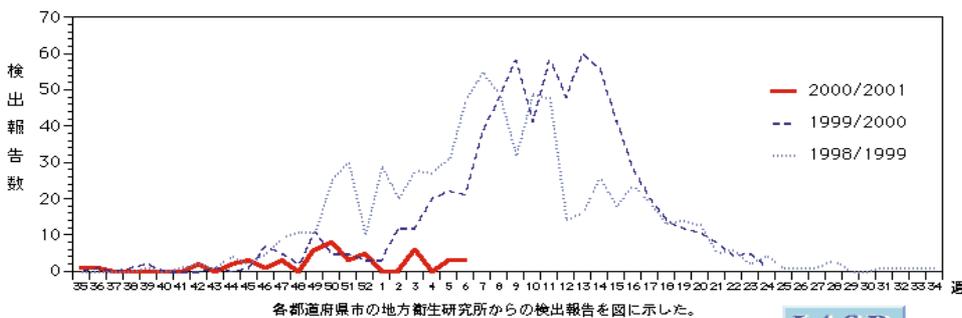


Infectious Agents Surveillance Report

## 感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告

今シーズンのロタウイルスの検出は47件、SRSVの検出は353件報告されている。最近では、ロタウイルスは第5週に新潟県1、大阪市2、第6週に奈良県2、大分県1、SRSVは第4週に栃木県4、新潟県3、第5週に大阪市1が報告されている。

週別ロタウイルスの検出報告数、シーズン別比較 (1998/1999、1999/2000、2000/2001)  
(病原微生物検出情報: 2001年2月16日現在報告数)

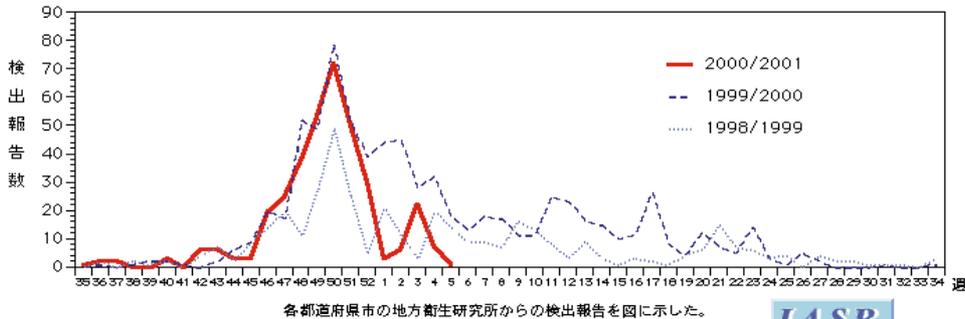


各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

週別SRSVの検出報告数、シーズン別比較 (1998/1999、1999/2000、2000/2001)  
(病原微生物検出情報: 2001年2月16日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



## 今シーズン前期におけるノーウォーク様ウイルス検出状況 - 岩手県

ノーウォーク様ウイルス( NLV )による急性胃腸炎は毎年冬季に多く発生する。今シーズン前期における小児の散発性胃腸炎症例からのNLV検出状況について紹介する。

検査は、小児科定点である一関市内のA医院を受診した感染性胃腸炎の小児を対象とし、次の方法によりNLVの検出を行った。糞便の電顕試料の一部からグアニジン・塩化セシウム超遠心法によりRNAを抽出し、AndoらのG-1、G-2プライマー( J. Clin. Microbiol. 33, 1995 )を用いてRT-PCRを行った。

電気泳動により目的とするバンドが認められたものは、ダイレクト・シーケンス法により塩基配列を決定し、遺伝子解析を行った。

NLVは10月には検出されず、今シーズン最初の検出は11月18日採取の症例からであった。その後、検出率、検出数とも増加し、11月18日以降に採取された58症例中40症例( 69% )からNLVが検出された。NLV陽性症例のうち4症例からは2種類の遺伝子型のNLVが同時に検出されたため、検出株数は44株で、その遺伝子型別は10株が遺伝子型1( GI )、34株が遺伝子型2( GII )であった。

塩基配列から系統樹を作成したところ、GIの株は1つのクラスターになり、GIIの株は23株、9株、2株から成る3つのクラスターに分かれた。これまでの調査において示唆されていたのと同様に、今回の結果からも、市中では塩基配列の異なる複数の株が同時に流行していることが確認された。

岩手県衛生研究所

齋藤幸一 佐藤 卓 熊谷 学 田頭 滋 菅原喜弘 小林良雄 宇佐美 智

岩手医科大学

堤 玲子 佐藤成大

( IASR2001年3月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )

## 小学校で発生したノーウォークウイルスによる感染性胃腸炎

神奈川県内の小学校において、嘔吐下痢症の集団発生が2事例確認された。最初の事例は、平成12年11月6日にA小学校において発生し、75名の集団欠席があった。欠席者は2年生が135名中43名( 31.9% )で最も多かった。発生が11月であったことからインフルエンザ等の流行性疾患、さらに嘔吐症状を示した児童が欠席者に多かったことから嘔吐下痢症を起こすウイルスの検出を行った。咽頭うがい液7検体について、RD-18S、HeLa、Vero、HEp-2、GMK、MDCK、CaCo-2細胞を用いてウイルス分離を行ったが、ウイルスは分離されなかった。糞便5検体について遺伝子検出法でノーウォークウイルス( NV )の検出を試みたところ、5検体すべてからNVが検出され、遺伝子型はgenogroup IIであった。電子顕微鏡( 電顕 )ではウイルスは検出されなかった。この学

校では11月3日から5日にかけて子ども会の行事が校庭で行われており、この行事に参加した児童を介してNVの感染が広がった可能性が考えられた。

次の事例は翌週11月15日にB小学校において発生し、2年生2クラスと4年生2クラスの児童134名中51名(38.0%)の児童が嘔吐下痢症状を示した。そのため、患者糞便21検体について遺伝子検出法でNVの検出を行ったところ、14名(66.7%)にNVが検出され、遺伝子型はgenogroup IIであった。電顕ではウイルスは検出されなかった。集団欠席のあった4つのクラスの児童は同一のトイレと水飲み場を使用しており、教室が廊下を挟んでそのトイレの前に位置していた。さらに、嘔吐下痢症発生当時この廊下の掃除当番であった児童の発症率が有意に高いことから、トイレやその周辺の廊下等の汚染によりNVの感染が広がった可能性が考えられた。

この時期、A小学校のある秦野保健所管内では、このような嘔吐を主症状とする感染性胃腸炎が急激に増加しており、集団生活の場である学校等では、感染性胃腸炎の集団発生が起こりやすい状況にあった。なお、これらの学校では2日間の学級閉鎖により、感染の拡大を早期に終息することができた。このように感染性胃腸炎が疑われる集団発生の場合、すみやかに原因ウイルスの検査を行い、適切な対策をとることが重要であると考えられた。

今回、検査にご協力いただきました県衛生部、秦野保健所、大和保健所の方々に深謝いたします。

神奈川県衛生研究所ウイルス部

原 みゆき 古屋由美子 片山 丘 渡邊寿美 斎藤隆行 今井光信

(IASR2001年3月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



# 海外感染症情報

## 南アフリカでのコレラ流行 - 更新

WHO/CSR 2001年2月16日

2000年8月中旬から始まった流行でKwazulu-Natal保健省は2月14日までに、48,647人の患者と108人の死亡者を報告した。

保健省は治療を行うとともに、上水道を供給する他部門と協力し、保健教育、衛生および保健推進活動を行う計画をたてて実施している。

## エボラ出血熱の流行 - ウガンダ、2000年8月～2001年1月

CDC/MMWR 2001年2月9日

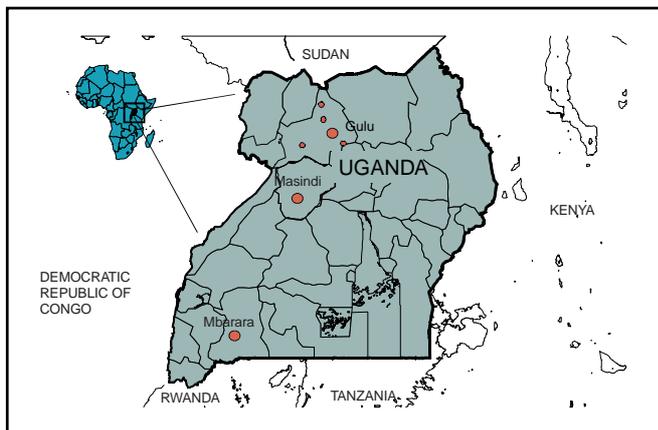
2000年10月8日にLacorにあるSt. Mary's病院の管理者とGulu地区の保健サービスの地区責任者から、出血を伴う致死性の高い熱性疾患が流行していることが、Kampalaにある保健省に報告された。南アフリカ、ヨハネスブルグの国立ウイルス研究所において10月15日に、St. Mary's病院の医療従事者を含む患者の検体よりエボラウイルスが確認された。

流行の範囲と規模を決定し、疾病が流行している場所を確認し、早期に患者を発見するためのアクティブ・サーベイランスシステムが提案された。有症の人は病院での受診を勧められ、エボラ出血熱患者であった場合は、現地での更なる感染を防ぐために入院が勧告された。確認患者と接触した者の21日間に渡る経過観察、疑わしかった者を含むすべてのエボラ出血熱によると思われる死亡者を埋葬する訓練されたチームの設立、地域の保健教育、伝統的な治療と埋葬儀式の中止、大きな集会の中止、そして隔離病棟を含む病院の感染抑制対策の改善を含む予防対策活動が目標とされた。

10月の3週目にアクティブ・サーベイランスが実施され、患者は新たに作られたalert、suspectおよびprobableの3症例分類により区分された。

10月5日から11月27日の間で、下痢(66%)、衰弱(64%)、食欲不振(61%)、頭痛(63%)、吐き気・嘔吐(60%)、腹痛(55%)、胸痛(48%)の症状を伴い、検査室検査でエボラ出血熱と確定診断された62人の患者がGulu病院に入院した。患者は発症した後、平均8日で治療に訪れていた(範囲は2～20日)、12人(20%)の患者には出血がみられ、主に消化管からの出血であった。62人の確認患者のうち36人(58%)が死亡し、15歳未満の患者5人のうち4人が死亡した(致死率:80%)。エボラ出血熱に罹患した妊娠中の女性に自然流産が起こることが報告された。死亡した患者は通常急速に進行するショック症状を示し、血液凝固障害が進行し意識不明となっていた。

図1. Distribution of presumptive\* case-patients with Ebola hemorrhagic fever-Uganda, August 2000- January 2001 (MMWR Vol.50, No.5より)



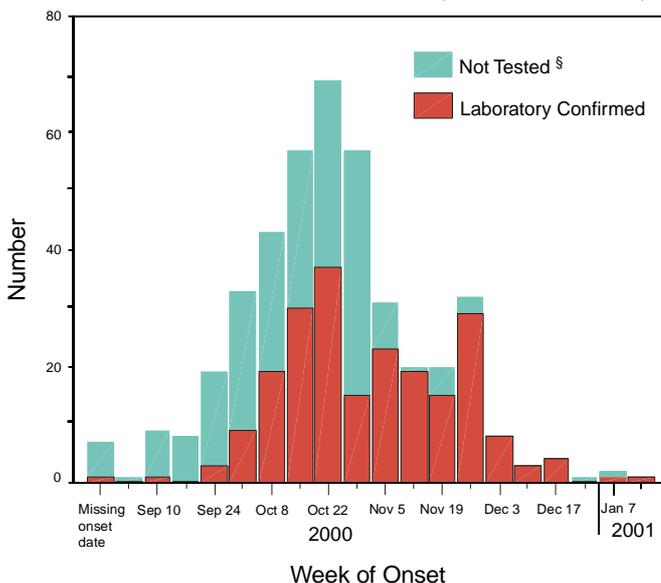
\* Persons initially identified by the mobile teams or assessed by a health-care worker (suspect and probable cases using the notification scheme) who were not laboratory negative and met the following case definition: a) unexplained bleeding; or b) fever and three or more specified symptoms (i.e., headache, vomiting, anorexia, diarrhea, weakness or severe fatigue, abdominal pains, body aches or joint pains, difficulty in swallowing, difficulty in breathing, and hiccups); or c) unexplained deaths. All laboratory-confirmed cases were also included.

2001年1月23日までに、ウガンダの3つの地区( 図1 )から報告された224人( 53% )の死亡者を含む425人の疑い患者がエボラ出血熱と診断された。それぞれの患者数はGulu地区393人( 93% )、Masindi地区が17人( 6% )、そしてMbarara地区は5人( 1% )であった。2000年の3地区の総合人口は180万人である。10月初期の患者群によって流行が確認され、抑制対策のきっかけとなったが、調査( 例えば患者の記録の再調査、回復した患者や代理人の話を聞く )によって地域で発生した患者数と数週間前に入院した患者数が確認された。最初の患者( 推定 )の発症は2000年8月30日で、最後の患者( 推定 )の発症は2001年1月9日であった( 図2 )。患者( 推定 )の年齢分布は生後3日から72歳であり( 中間値は28歳 )、269人( 63% )は女性であった。発症してから死亡までの平均日数は8日( 95%信頼区間 = ±5日 )、218人の患者が検査室検査で確定診断された。

疫学的な調査で、エボラ出血熱患者の葬式に参加しての感染、家族内感染、院内感染という3つの主な感染経路が確認された。Guluで働いていた22人の医療関係者のうち14人( 64% )が隔離病棟が設置された後に罹患し、このことによって感染抑制対策が強化された。距離が離れている場所での2つの流行は、エボラ出血熱患者に接触した感染者がGuluからMbararaとMasindi地区に移動したことで始まった。国の情報提供とサーベイランスによって、迅速な流行地の確定と効果的な抑制対策が実行された。

図 2. Number of presumptive\* case-patients with Ebola hemorrhagic fever, by week of onset- Uganda, August 2000-January 2001 †

( MMWR Vol.50, No.5より )



\* Persons initially identified by the mobile teams or assessed by a health-care worker (suspect and probable cases using the notification scheme) who were not laboratory negative and met the following case definition: a) unexplained bleeding; or b) fever and three or more specified symptoms (i.e., headache, vomiting, anorexia, diarrhea, weakness or severe fatigue, abdominal pains, body aches or joint pains, difficulty in swallowing, difficulty in breathing, and hiccups); or c) unexplained deaths. All laboratory-confirmed cases were also included.

† n=425.

§ Persons meeting presumptive definition but no specimens collected or laboratory tested.



# 感染症の話

## カンピロバクター感染症

カンピロバクターは15菌種9亜種(2000年現在)に分類されているが、ヒトの下痢症から分離される菌種は*Campylobacter jejuni* subsp. *jejuni*(以下*C. jejuni*)がその95～99%を占め、*C. coli* や*C. fetus* subsp. *fetus* は数%に過ぎない。従って、カンピロバクター感染症は、*C. jejuni* 感染症と言っても過言ではない。

### 疫学

*C. jejuni* は1982年に食中毒起因菌に指定されて以来、食中毒事例数においてサルモネラ、腸炎ビブリオ、黄色ブドウ球菌に次ぐ発生頻度を示している。

近年、その頻度は欧米諸国と同様、我が国においても増加傾向にあり、厚生省の食品衛生調査会食中毒部会(平成12年2月25日)でもその対策が急務である旨、提言がなされている。厚生省食中毒統計によると、全国における本食中毒の年間事例数(1996年以降は患者数2名以上)は、1995～1996年では20～46件であったが、1997年に73件、1998年に63件、及び1999年に77件と急増している(表)。患者数は、大規模食中毒事例が減少したこともあり、1,400～2,500人前後を推移している。一方、散発下痢症における本菌の検出率は、小児では約15～25%で下痢症起因菌の第1位を占め、成人でも約5～10%前後の高い検出率を示している。特に小児では受診当初感冒と診断されることが多く、実際の患者数はかなりの数に上るものと推察される。米国では、我が国との食生活の相違はあるものの、本菌罹患率は10万人当たり約6人と推定されている(CDC)。

一般に、細菌性食中毒の発生は夏季に多発し冬季に減少するが、本食中毒においては様相を異にして、その発生は5～6月に多く、7～8月はやや減少、再び9～10月頃に上昇傾向を示している。しかし、東京都内では1999年以降、冬季の発生が著しく増加している。

*C. jejuni* 食中毒発生時における感染源の特定は極めて困難である。それは、少量感染( $10^2$ 個以上)の成立、長い潜伏時間(2～5日) 加えて通常の大気条件下で本菌は急速に死滅する生理学的特徴に起因する。しかし、患者の喫食調査並びに施設等の疫学調査結果からは、推定原因食品又は感染源として、鶏肉関連調理食品及びその調理過程の不備が強く示唆されている。なお、欧米では生牛乳を原因食とする事例が多いが、我が国では加熱殺菌乳が流通しており、当該食品による発生例はみられていない。この他、井戸水、湧水および簡易水道水を感染源とした水系感染事例が我が国では少なくとも12例確認されており、その原因の大部分は不十分な消毒であった。

表. カンピロバクター食中毒の事件数および患者数：全国

年	事件数*	患者数
1995	20	1,493
1996	46	1,538
1997	73	2,464
1998	63	1,624
1999	77	1,386

\* 1996年以降は、患者数2名以上の事件数  
(厚生省食中毒統計)

### 病原体

*C. jejuni* は長さ0.5～5 μm、幅0.2～0.4 μmのグラム陰性らせん状桿菌である。両極にそれぞれ1本の鞭毛を持ち、所謂コルクスクリュー様の独特な運動を活発にする(写真)。本菌の発育には微好気条件(酸素濃度:5～10%)が必須で、発育温度域は34～43℃、炭水化物は全く利用しない。本菌はウシ、ヒツジ、野鳥及びニワトリなど家禽類の腸管内に広く常在菌として保菌されている。なお、*C. coli* はブタでの保菌率が極めて高いことが特徴である。



写真. *Campylobacter jejuni* の電子顕微鏡写真

### 臨床症状

症状は下痢、腹痛、発熱、悪心、嘔吐、頭痛、悪寒、倦怠感などであり、他の感染型細菌性食中毒と酷似するが、潜伏時間が一般に2～5日間とやや長いことが特徴である。感染性腸炎研究会(都市立伝染病集計)資料によると、入院患者の98%に下痢が認められ、その便性状は水様便(87%)、血便(44%)、粘液便(24%)である。特に粘血便がみられる場合は、赤痢菌、腸管出血性大腸菌、腸炎ピブリオ、サルモネラ等による腸炎との鑑別を要する。下痢は1日に10回以上に及ぶこともあるが、通常2～6回で1～3日間続き、重症例では大量の水様性下痢のために急速に脱水症状を呈する。腹痛は87%、嘔吐は38%にみられた。発熱時の平均体温は38.3℃で、サルモネラ症に比べるとやや低い。

*C. jejuni* 感染症の一般的な予後については、一部の免疫不全患者を除き死亡例もなく良好な経過をとる。しかし、近年本菌の後感染性疾患としてギラン・バレー症候群(GBS)との関連性が注目を浴びており、GBS患者全体の3割程度に本菌による先行感染(GBS発症時の1～3週間前)が認められている。GBSはこれまで予後良好な自己免疫性末梢神経疾患として捉えられていたが、*C. jejuni* 感染症に後発する症例は概して重症化し易く、発症1年後の時点においても寛解する患者は6割程度に止まる。また一部患者においては、呼吸筋麻痺が進行し死亡例も確認されている。GBSの罹患率は諸外国でのデータでは人口10万人当たり1～2人とされているが、我が国における発生状況は情報集積データがなく不明である。

### 病原診断

*C. jejuni* 感染症の診断については臨床症状から判断することは困難で、糞便等から本菌を分離することが最も確実な方法である。しかし、その培養には微好気培養装置が必要で、最低2日間(37～42℃)要する。更に、本菌の同定には3日間程度必要であり、迅速性を図るためにPCR法等の遺伝子診断技術が導入されつつある。

### 治療・予防

患者の多くは自然治癒し予後も良好である場合が多く、特別治療を必要としないが、重篤な症状や敗血症などを呈した患者では、対症療法と共に適切な化学療法が必要である。第一選択薬剤としては、エリスロマイシン等のマクロライド系薬剤が推奨される。セフェム系薬剤に対しては自然耐性を示すため治療効果は望めない。

ニューキノロン系薬剤に対しては近年耐性菌が増加しており、世界的な問題となっている。私共の調査においても、NFLX, OFLX, CPMX, NAの4剤に対する耐性株出現頻度は調査開始時(1993～1994年)は15%程度であったが、1998～1999年には26.5%と約2倍に増加していた。従って本剤を使用する際は、このことを念頭に入れた処方が必要であろう。

本菌感染症の予防は食品衛生の面からみると、他の細菌性食中毒起因菌と同様獣肉(特に家禽肉)調理時の十分な加熱処理、また調理器具や手指などを介した生食野菜・サラダへの二次汚染防止に極力注意することである。また、本菌は乾燥条件では生残性が極めて低いことから、調理器具・器材の清潔、乾燥に心掛けることも必要である。一方、食品の嗜好面からは、生肉料理(トリ刺し、レバ刺し等)の喫食は避けるべきであろう。その他、イヌやネコ等のペットからの感染例も報告されており、接触する機会が多い幼小児及び高齢者等においては啓蒙を図ると共に、ペットの衛生的管理が必要である。

### 食品衛生法での取り扱い

食中毒が疑われる場合は、24時間以内に最寄りの保健所に届け出る。

(東京都立衛生研究所微生物部 高橋正樹 横山敬子)



## 読者のコーナー

Q : idwr 2000年第50号 P.11-13の海外感染症情報で、ヒトの狂犬病に関して米国やカナダの情報が記載されていますが、私も以前からMMWR等でコウモリによる狂犬病に注目していました。日本においては1957年以降狂犬病の発生がないとの事ですが、日本でも夕方など地域によってはかなりの数のコウモリが飛んでいるのを見かけます。日本にいるコウモリから狂犬病関連ウイルスが分離された報告があるかどうか、あればその詳細を教えてください。( K医科大学 I.Y )

### 日本のコウモリにおける狂犬病ウイルス

日本のコウモリから狂犬病ウイルスを分離するという試みは、以前国立感染症研究所ウイルス一部でおこなったことがあります。電顕で砲弾型をしたウイルスが分離されており、rhabdovirusであることには間違いありませんが、このウイルスは、CDCから取り寄せたlyssavirus共通のモノクローナル抗体には反応しませんでした。現在のところ、日本のコウモリから分離されたウイルスは、Australian bat virusを含むlyssavirusとは関連ないと考えています。

なお、我が国においてコウモリから狂犬病が感染したとの報告はありませんが、過去のことについては不明です。

( 回答 : 国立感染症研究所ウイルス一部 新井陽子 )

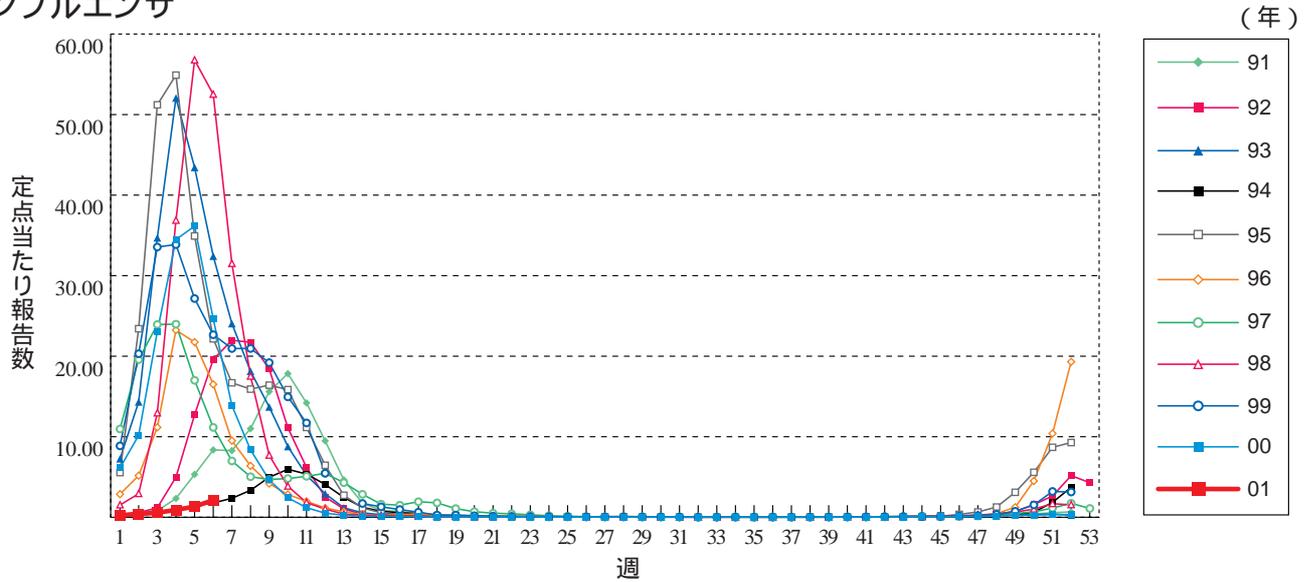
\*\*\*\*\*

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

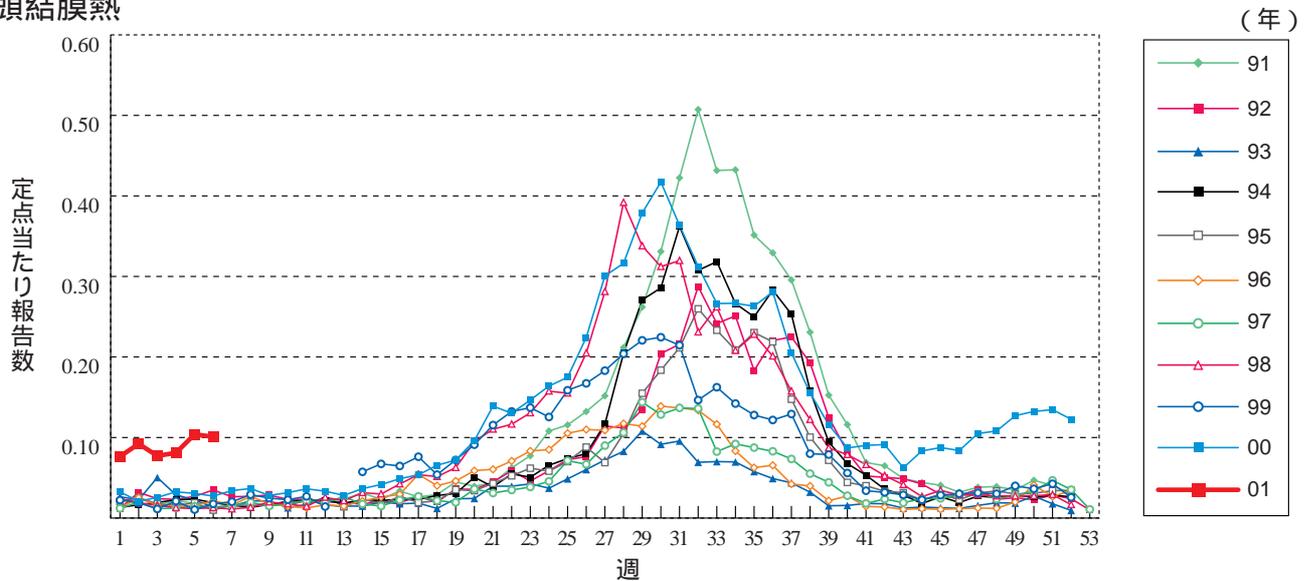
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

**グラフ総覧(6週)**

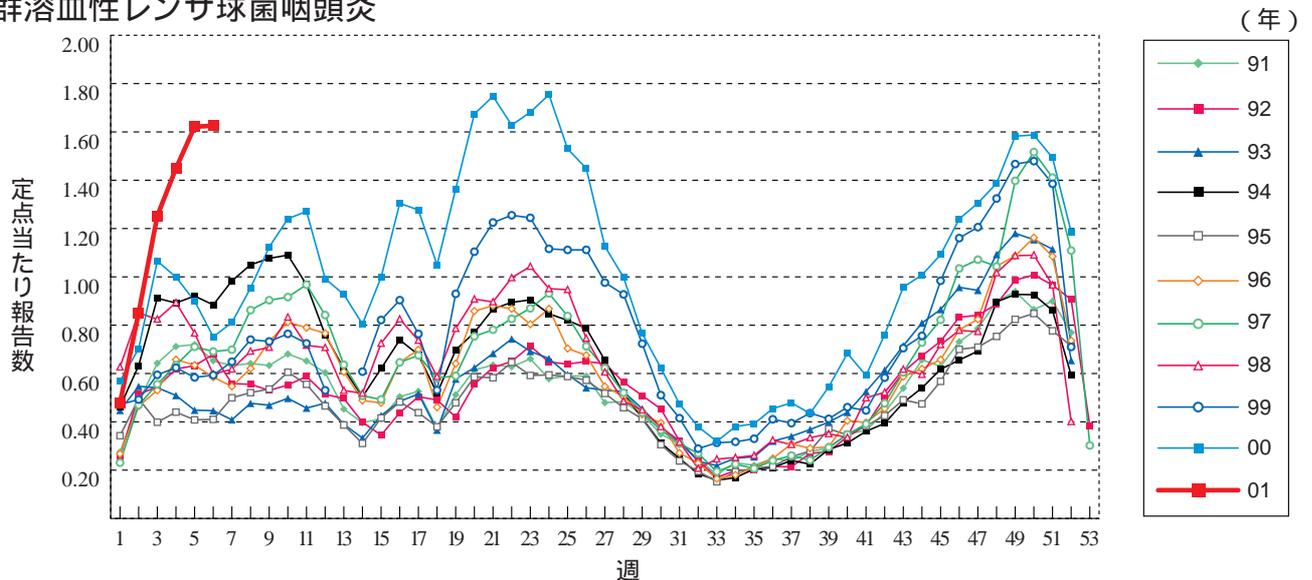
**インフルエンザ**



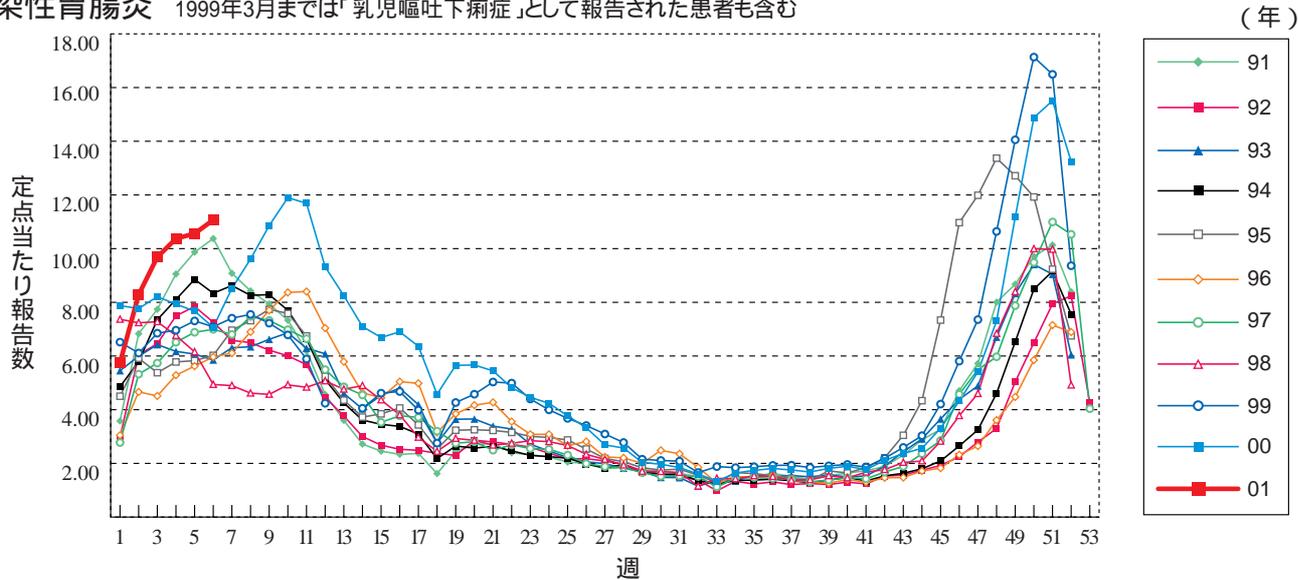
**咽頭結膜熱**



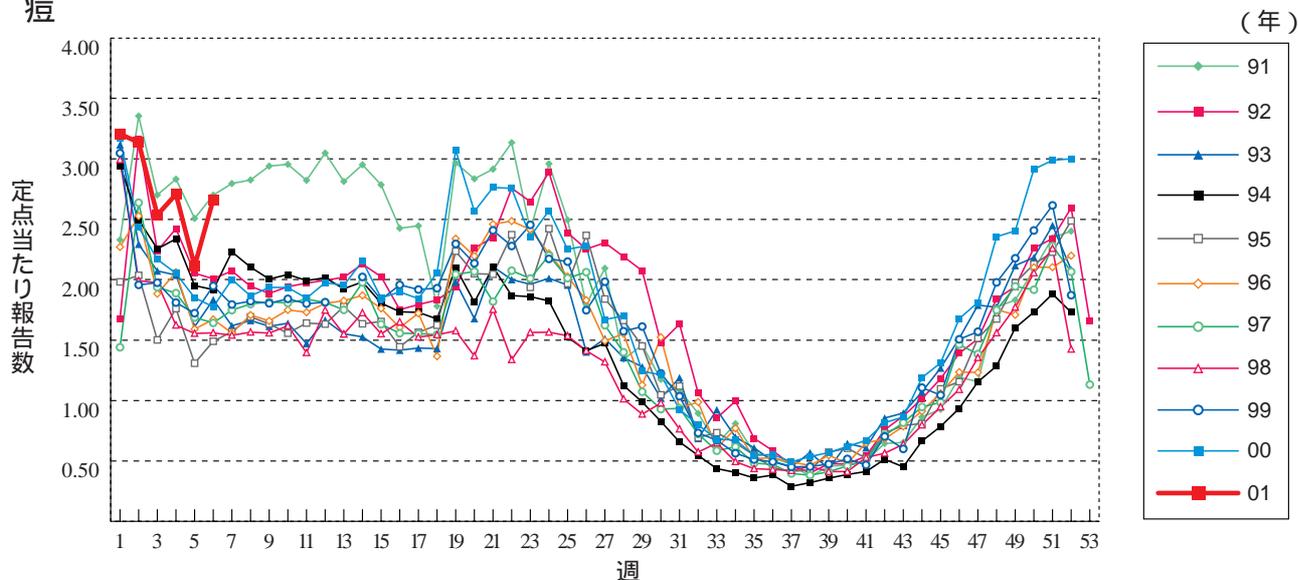
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



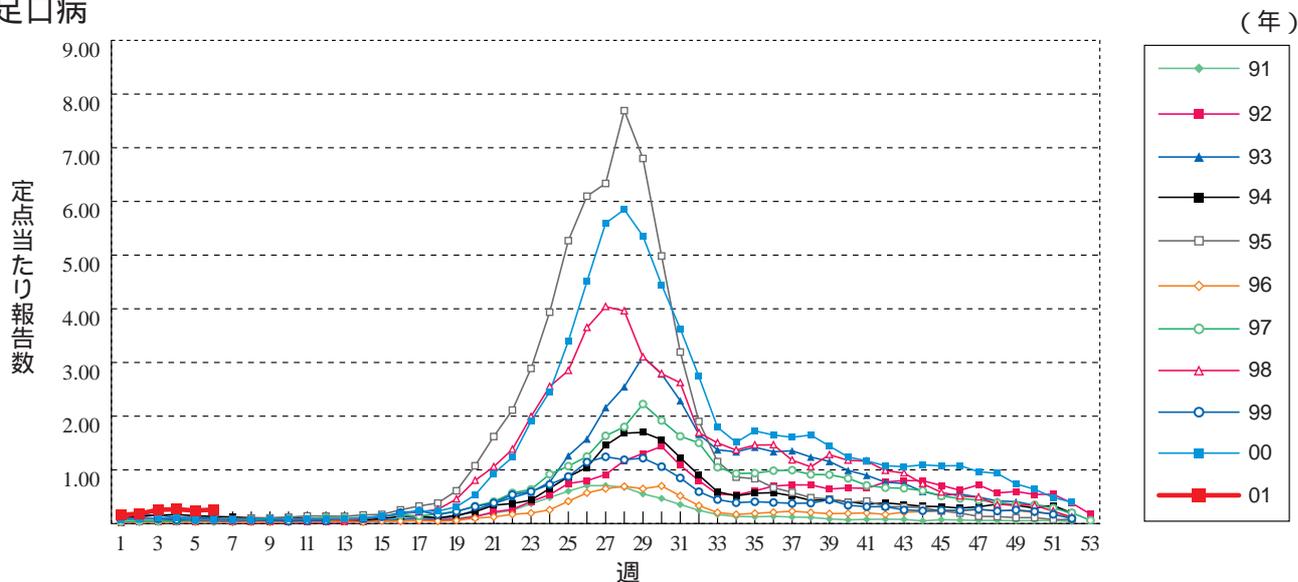
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



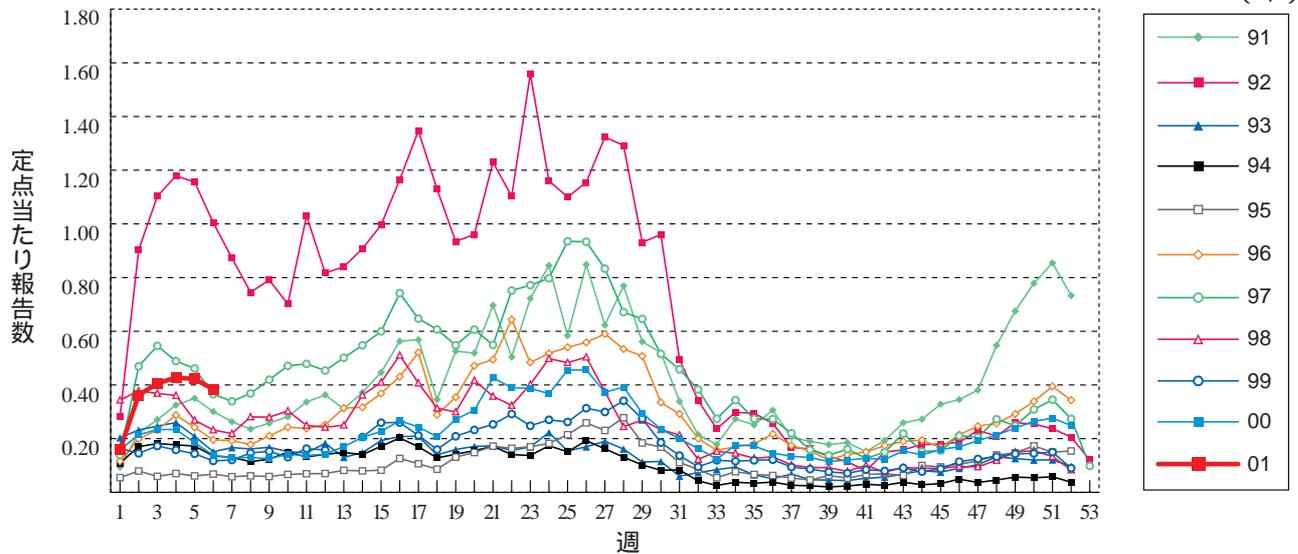
**水痘**



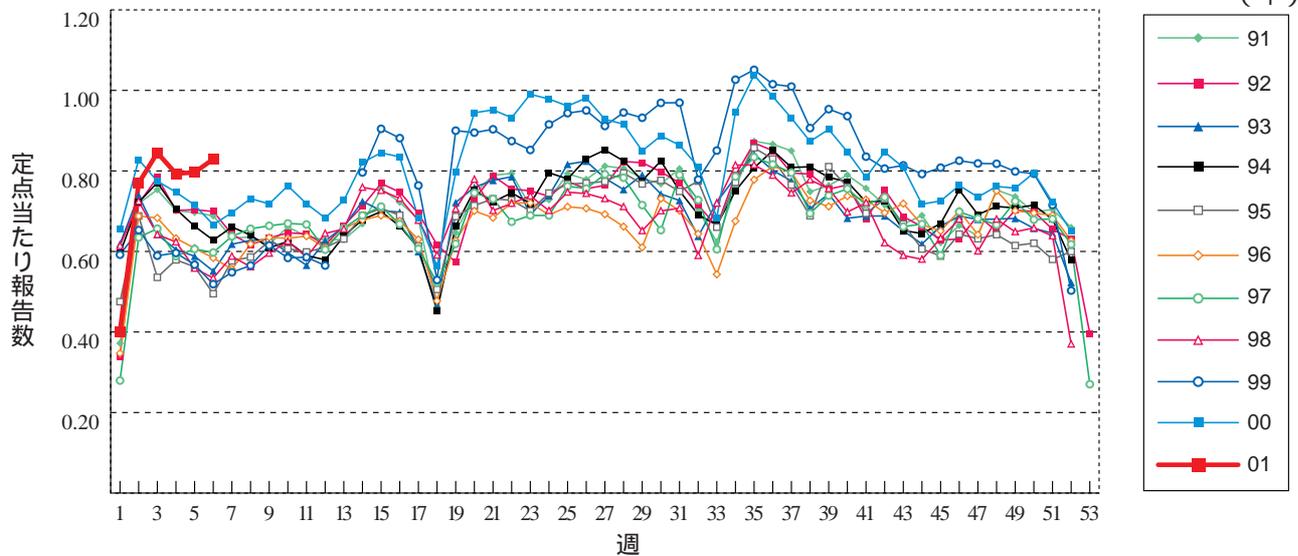
**手足口病**



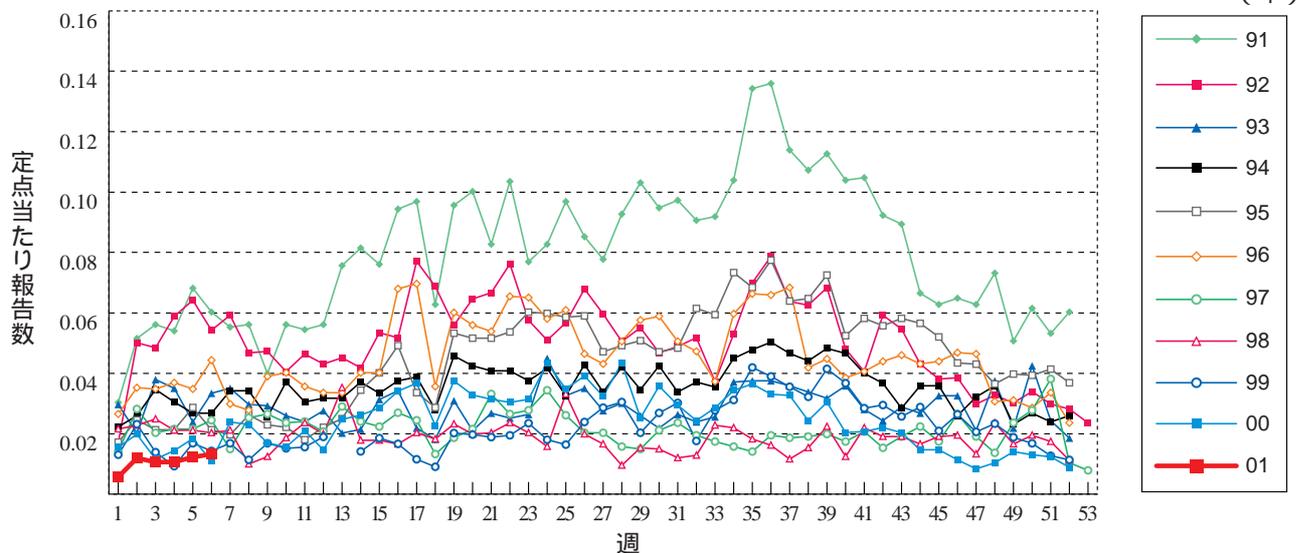
伝染性紅斑



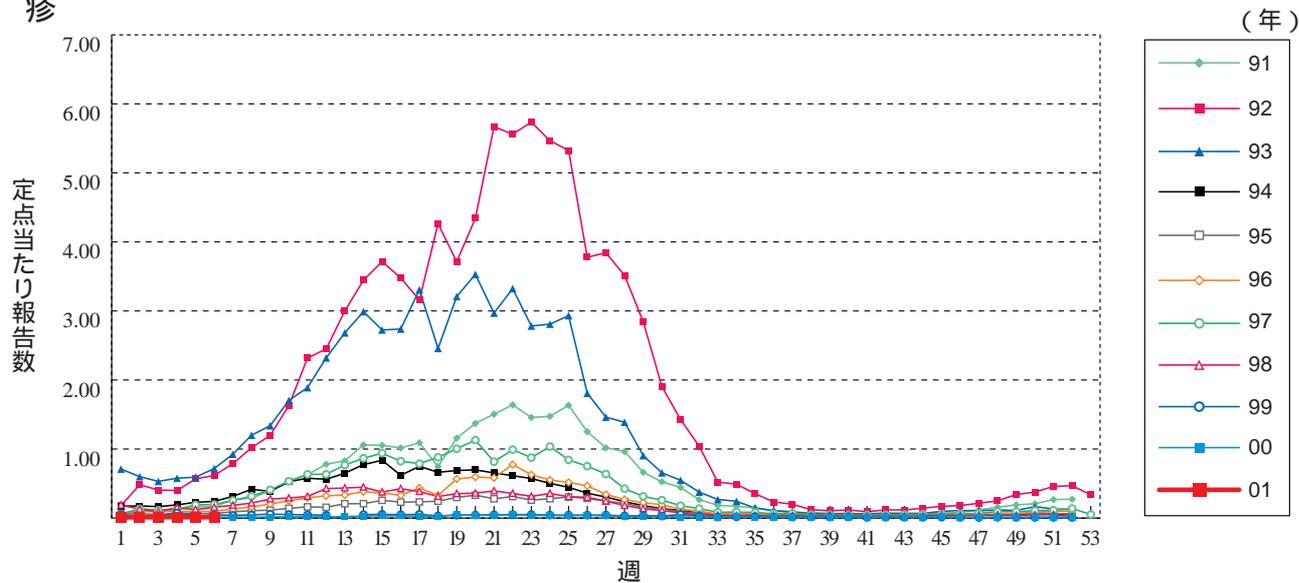
突発性発疹



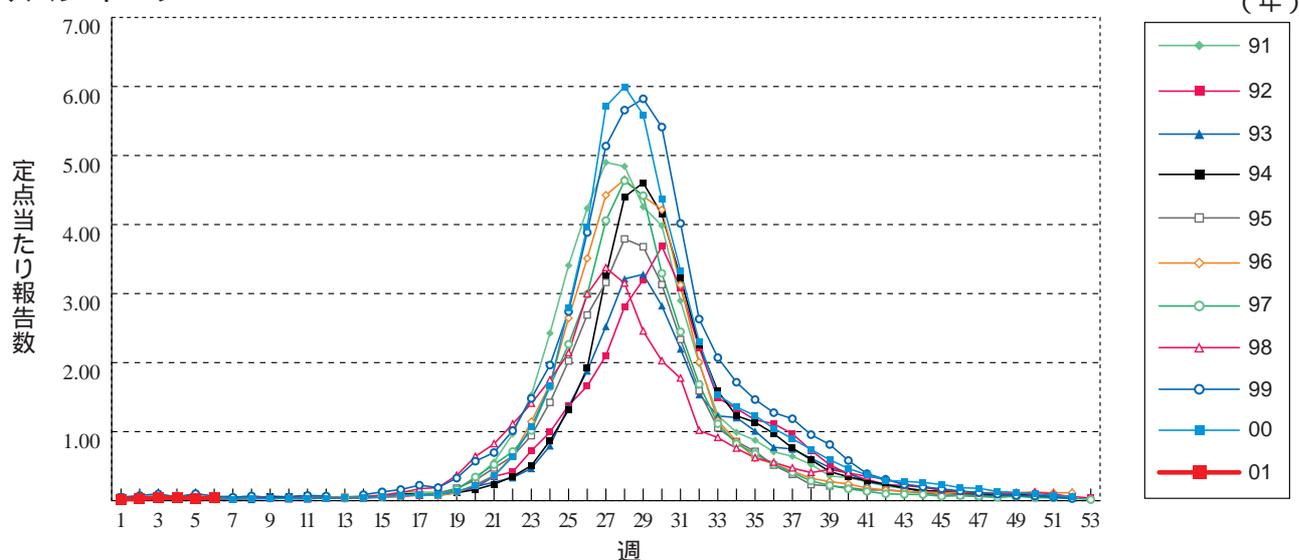
百日咳



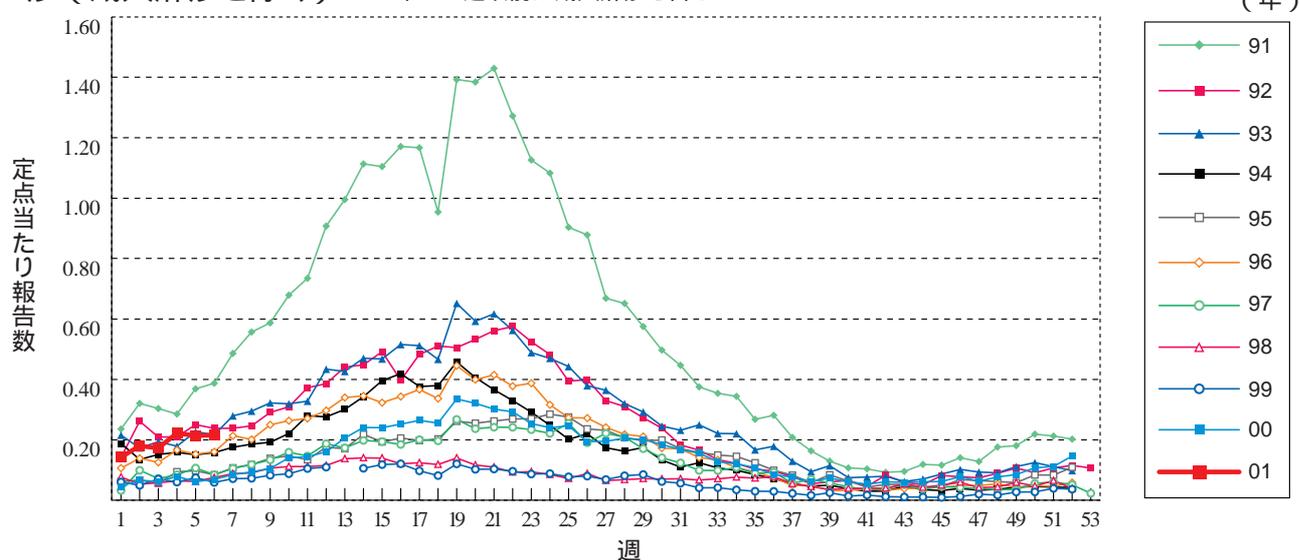
風 疹



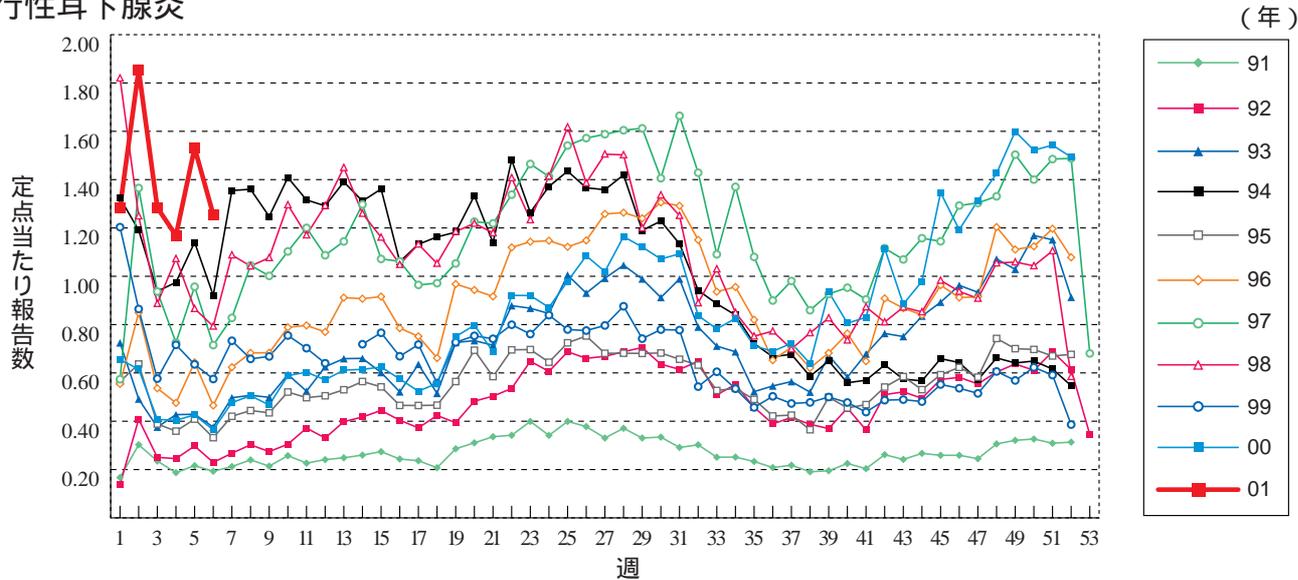
ヘルパンギーナ



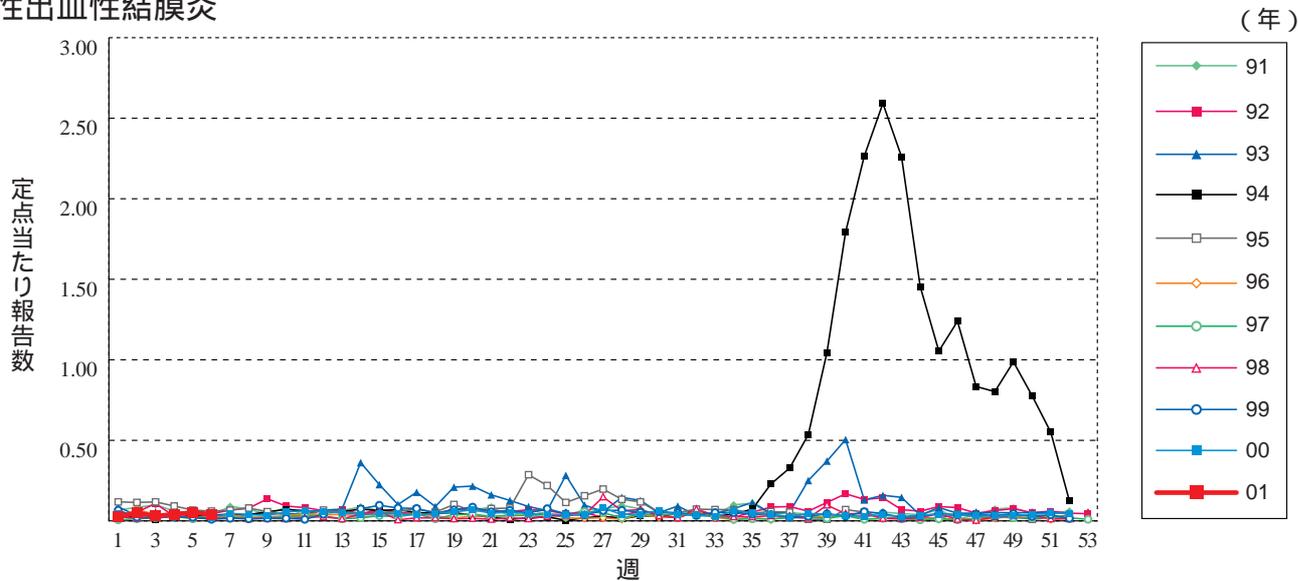
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



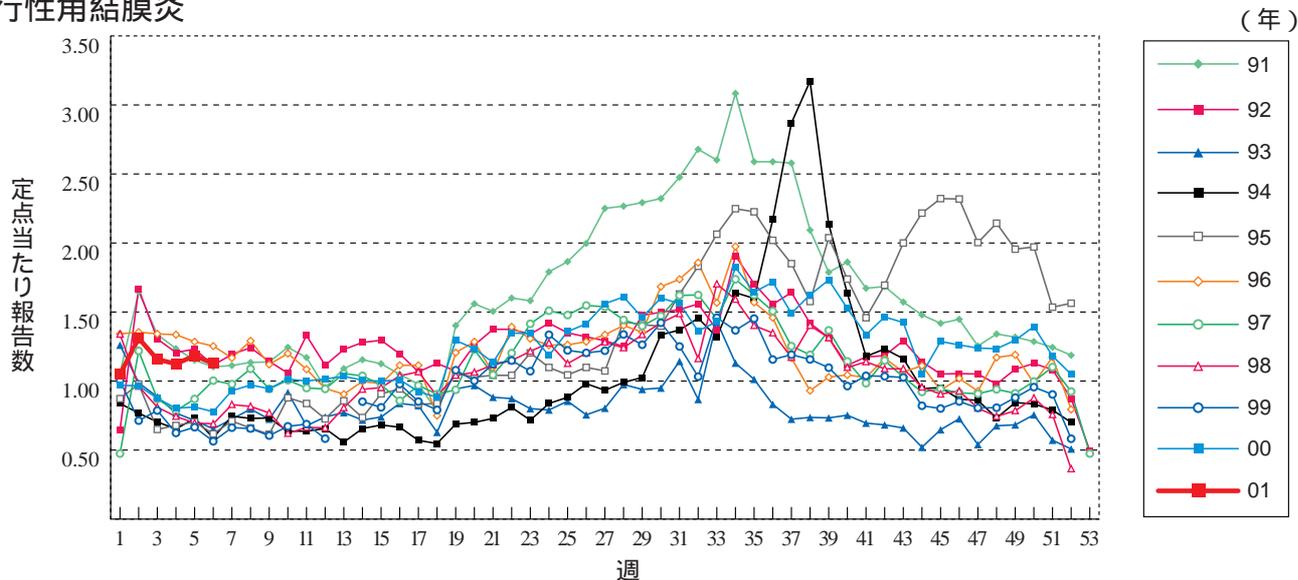
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

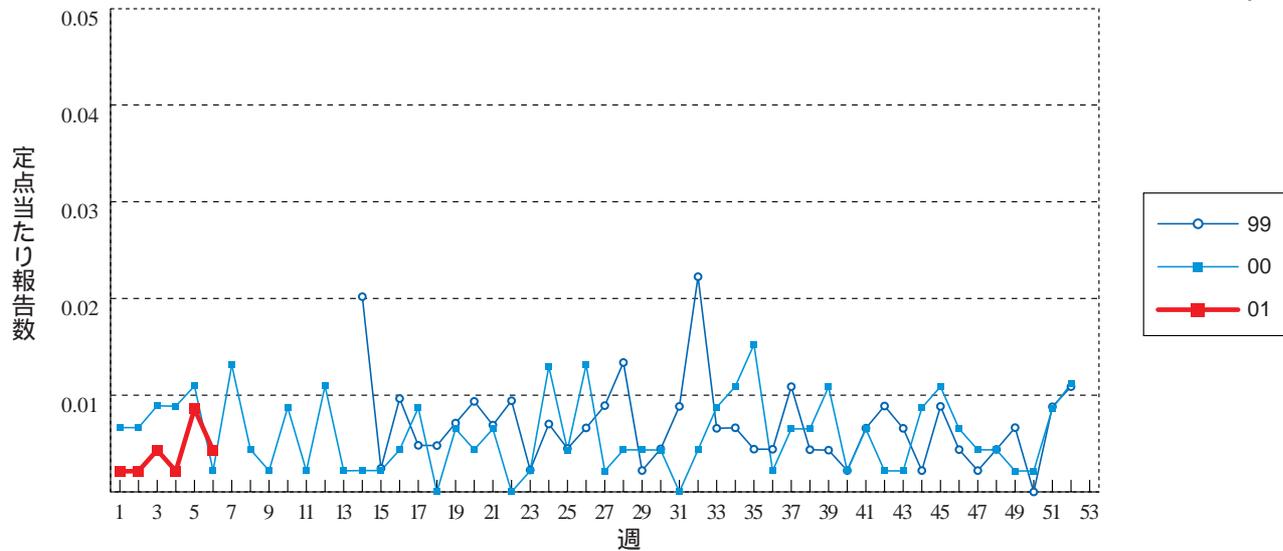


流行性角結膜炎



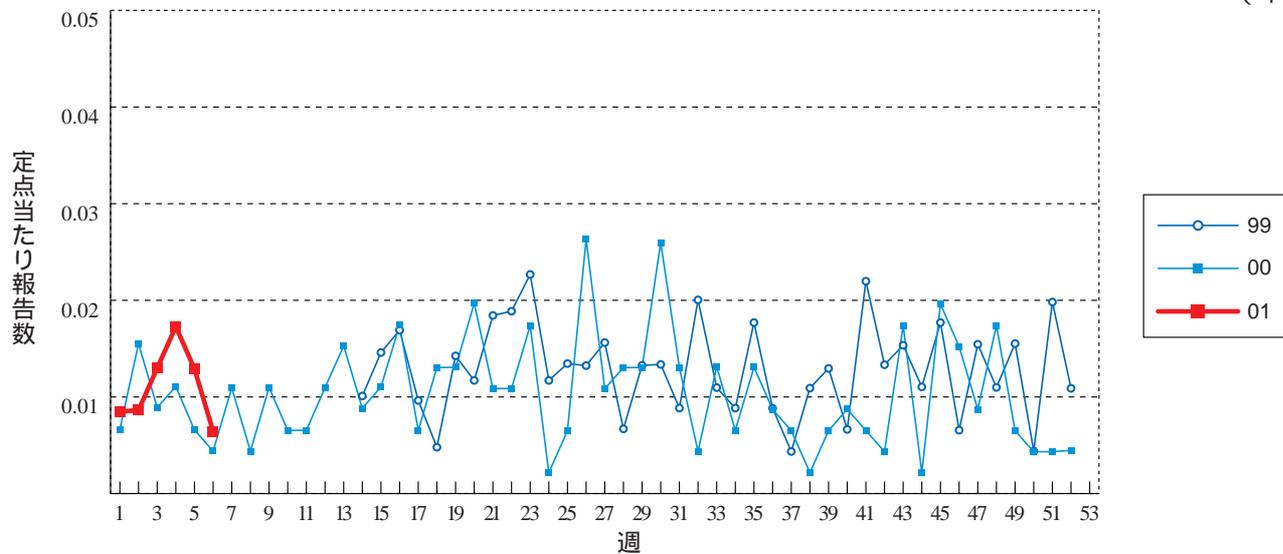
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



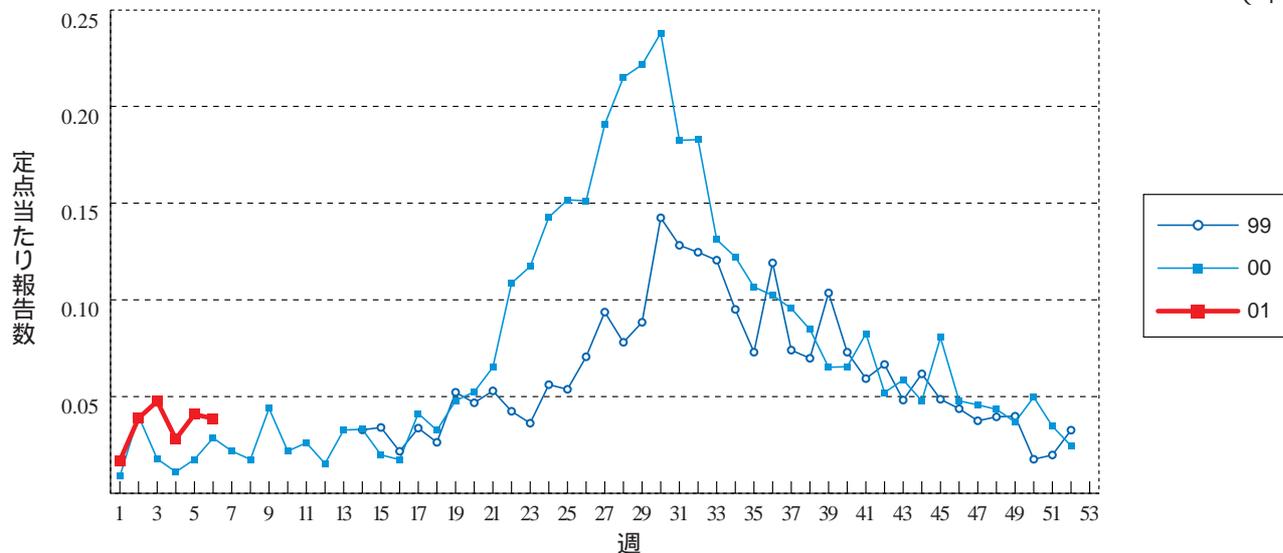
細菌性髄膜炎

(年)



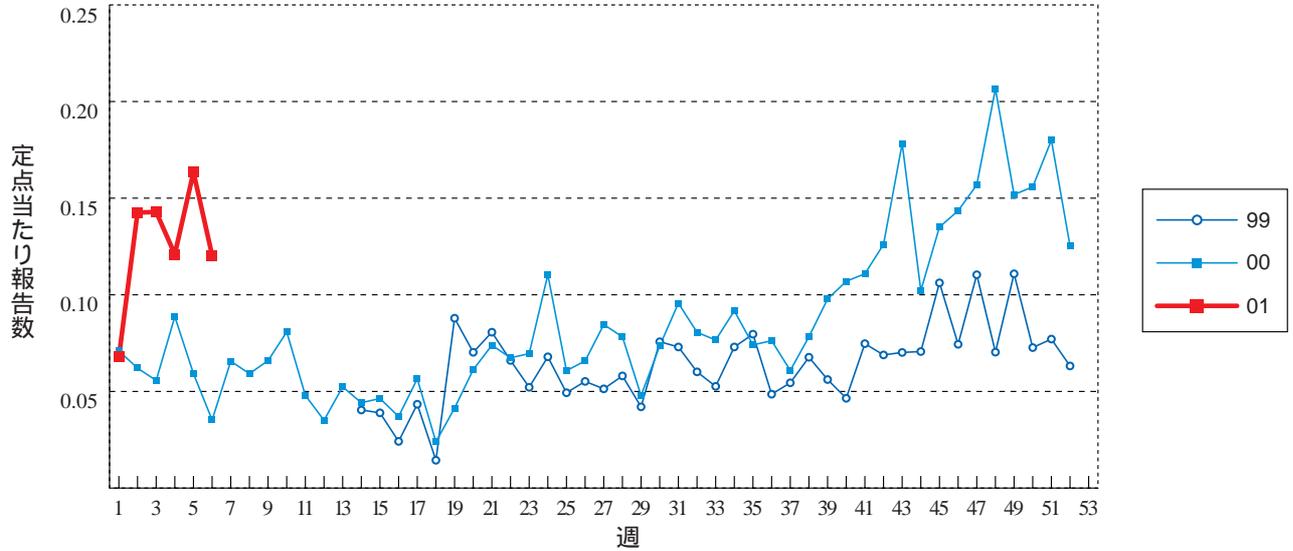
無菌性髄膜炎

(年)



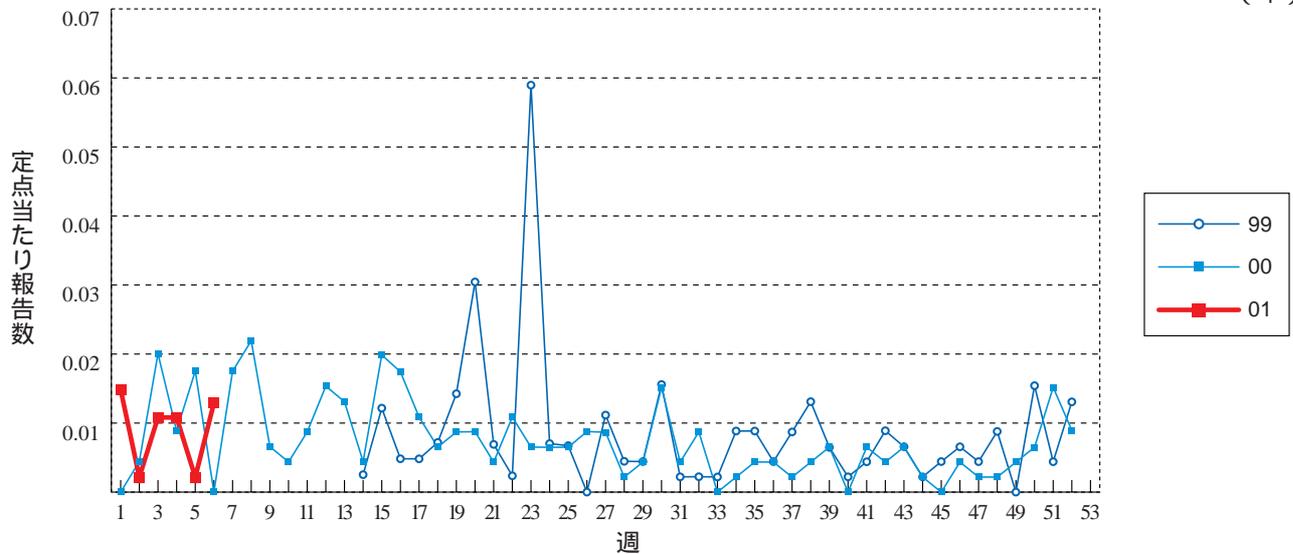
マイコプラズマ肺炎

(年)



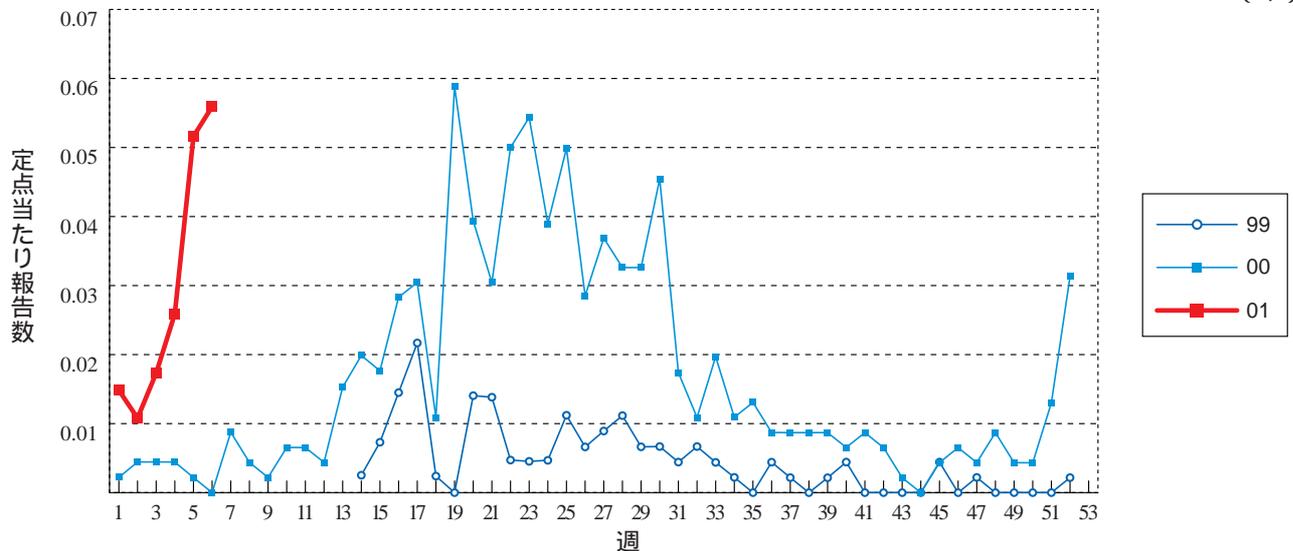
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 6週のデータ

注)表中の報告数は2月16日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年6週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	10	57	2	5	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	7	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	1	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年6週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	6	68	3	35	-	-	-	-	-	3	-	-	9	53
北海道	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
千葉県	-	-	-	-	1	3	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	8	-	6	-	-	-	-	-	2	-	-	1	6
神奈川県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大阪府	-	-	-	-	1	9	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
兵庫県	-	-	-	-	1	1	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
奈良県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年6週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	1	-	-	-	1	-	9	-	6	7	74	-	1	4	13	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	30	-	-	2	7	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	2	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	-	-	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年6週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	2	38	1	4	-	-	-	-	-	-	5	56
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
東京都	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	10
神奈川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年6週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	12
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年6週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	9869	2.13	305	0.10	4913	1.63	33444	11.07	8047	2.66	786	0.26	1161	0.38	2506	0.83	40	0.01
北海道	296	1.29	3	0.02	236	1.63	673	4.64	333	2.30	11	0.08	34	0.23	97	0.67	-	-
青森県	26	0.41	-	-	32	0.78	241	5.88	94	2.29	26	0.63	8	0.20	23	0.56	-	-
岩手県	19	0.31	-	-	23	0.61	342	9.00	69	1.82	8	0.21	63	1.66	26	0.68	-	-
宮城県	56	0.58	7	0.12	120	2.03	1130	19.15	145	2.46	18	0.31	38	0.64	71	1.20	1	0.02
秋田県	26	0.47	-	-	72	2.06	489	13.97	59	1.69	4	0.11	7	0.20	28	0.80	2	0.06
山形県	51	1.06	4	0.13	120	4.00	492	16.40	72	2.40	-	-	39	1.30	35	1.17	1	0.03
福島県	75	1.01	-	-	68	1.42	515	10.73	114	2.38	11	0.23	25	0.52	46	0.96	4	0.08
茨城県	86	0.73	5	0.07	105	1.44	532	7.29	177	2.42	12	0.16	10	0.14	36	0.49	1	0.01
栃木県	64	0.91	-	-	183	3.98	354	7.70	100	2.17	2	0.04	29	0.63	32	0.70	-	-
群馬県	104	1.04	8	0.13	198	3.19	522	8.42	176	2.84	7	0.11	21	0.34	46	0.74	-	-
埼玉県	666	2.63	19	0.12	354	2.23	2249	14.14	366	2.30	34	0.21	104	0.65	124	0.78	-	-
千葉県	438	2.20	24	0.19	251	1.95	1662	12.88	279	2.16	18	0.14	75	0.58	74	0.57	5	0.04
東京都	320	1.80	1	0.01	101	0.71	1258	8.86	170	1.20	6	0.04	64	0.45	57	0.40	-	-
神奈川県	735	2.24	23	0.11	225	1.10	2423	11.82	519	2.53	46	0.22	65	0.32	183	0.89	1	0.00
新潟県	131	1.32	35	0.58	218	3.63	764	12.73	199	3.32	8	0.13	17	0.28	42	0.70	2	0.03
富山県	51	1.06	-	-	98	3.38	282	9.72	103	3.55	3	0.10	2	0.07	26	0.90	-	-
石川県	29	0.60	5	0.17	80	2.76	569	19.62	80	2.76	8	0.28	17	0.59	32	1.10	-	-
福井県	40	1.25	6	0.27	51	2.32	331	15.05	54	2.45	14	0.64	12	0.55	19	0.86	-	-
山梨県	33	0.80	2	0.08	30	1.20	262	10.48	57	2.28	2	0.08	6	0.24	5	0.20	-	-
長野県	117	1.36	6	0.11	97	1.80	698	12.93	202	3.74	3	0.06	14	0.26	48	0.89	1	0.02
岐阜県	160	2.16	3	0.06	84	1.79	221	4.70	90	1.91	30	0.64	11	0.23	29	0.62	1	0.02
静岡県	415	3.03	17	0.20	123	1.43	1141	13.27	293	3.41	17	0.20	38	0.44	85	0.99	-	-
愛知県	283	1.47	10	0.05	223	1.23	1731	9.51	481	2.64	41	0.23	87	0.48	155	0.85	2	0.01
三重県	181	2.48	9	0.20	57	1.27	552	12.27	135	3.00	8	0.18	14	0.31	55	1.22	-	-
滋賀県	31	0.63	-	-	43	1.34	199	6.22	97	3.03	7	0.22	4	0.13	17	0.53	-	-
京都府	197	1.56	3	0.04	48	0.63	789	10.38	123	1.62	6	0.08	8	0.11	36	0.47	-	-
大阪府	1117	3.72	5	0.03	233	1.21	1306	6.77	308	1.60	12	0.06	28	0.15	175	0.91	4	0.02
兵庫県	650	3.28	14	0.11	185	1.45	1387	10.84	384	3.00	33	0.26	23	0.18	141	1.10	1	0.01
奈良県	243	4.42	1	0.03	32	0.91	443	12.66	98	2.80	-	-	5	0.14	19	0.54	1	0.03
和歌山県	644	13.42	-	-	49	1.58	195	6.29	100	3.23	2	0.06	3	0.10	31	1.00	-	-
鳥取県	22	0.76	2	0.11	121	6.37	323	17.00	91	4.79	1	0.05	2	0.11	25	1.32	-	-
島根県	101	2.66	2	0.09	18	0.78	278	12.09	63	2.74	3	0.13	-	-	14	0.61	-	-
岡山県	134	1.60	13	0.24	63	1.17	614	11.37	162	3.00	13	0.24	9	0.17	32	0.59	1	0.02
広島県	101	0.89	7	0.09	119	1.59	1001	13.35	146	1.95	8	0.11	30	0.40	65	0.87	2	0.03
山口県	178	2.54	18	0.37	86	1.76	695	14.18	231	4.71	17	0.35	11	0.22	60	1.22	1	0.02
徳島県	227	5.97	4	0.17	49	2.13	280	12.17	44	1.91	9	0.39	3	0.13	24	1.04	3	0.13
香川県	227	4.45	8	0.25	41	1.28	410	12.81	23	0.72	5	0.16	8	0.25	28	0.88	-	-
愛媛県	87	1.36	4	0.10	75	1.92	610	15.64	172	4.41	3	0.08	15	0.38	36	0.92	-	-
高知県	527	10.76	1	0.03	59	1.90	397	12.81	78	2.52	2	0.06	10	0.32	17	0.55	-	-
福岡県	316	1.94	6	0.06	213	2.03	1532	14.59	431	4.10	79	0.75	80	0.76	134	1.28	4	0.04
佐賀県	24	0.62	1	0.04	22	0.96	315	13.70	69	3.00	18	0.78	19	0.83	41	1.78	-	-
長崎県	86	1.30	2	0.04	20	0.42	328	6.83	154	3.21	61	1.27	5	0.10	32	0.67	-	-
熊本県	18	0.22	12	0.24	57	1.16	675	13.78	187	3.82	31	0.63	53	1.08	61	1.24	-	-
大分県	44	0.76	2	0.06	73	2.09	579	16.54	107	3.06	4	0.11	4	0.11	42	1.20	2	0.06
宮崎県	109	1.82	4	0.11	86	2.32	1017	27.49	298	8.05	49	1.32	34	0.92	46	1.24	-	-
鹿児島県	359	3.66	8	0.13	60	1.00	574	9.57	163	2.72	7	0.12	7	0.12	44	0.73	-	-
沖縄県	25	0.43	1	0.03	12	0.35	64	1.88	151	4.44	79	2.32	-	-	12	0.35	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年6週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	38	0.01	120	0.04	652	0.22	3794	1.26	25	0.04	715	1.13	2	0.00	3	0.01	18	0.04
北海道	1	0.01	-	-	40	0.28	161	1.11	-	-	23	0.79	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	3	0.07	2	0.05	30	0.73	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.08	-	-	2	0.05	7	0.18	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	2	0.03	8	0.14	23	0.39	-	-	7	0.64	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	3	0.09	16	0.46	-	-	9	1.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	31	1.03	4	0.50	6	0.75	-	-	-	-	1	0.11
福島県	-	-	-	-	24	0.50	22	0.46	-	-	4	0.33	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	-	-	3	0.04	89	1.22	-	-	55	3.44	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	4	0.09	21	0.46	-	-	21	1.75	-	-	-	-	2	0.29
群馬県	-	-	4	0.06	3	0.05	64	1.03	-	-	42	3.00	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	13	0.08	22	0.14	373	2.35	1	0.03	14	0.40	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	6	0.05	10	0.08	166	1.29	2	0.06	35	1.06	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	5	0.04	12	0.08	112	0.79	-	-	26	1.86	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	3	0.01	4	0.02	20	0.10	302	1.47	1	0.02	46	1.10	-	-	1	0.09	1	0.09
新潟県	-	-	5	0.08	1	0.02	124	2.07	-	-	10	1.11	-	-	-	-	2	0.15
富山県	-	-	3	0.10	-	-	10	0.34	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	26	0.90	-	-	5	0.71	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	1	0.05	2	0.09	126	5.73	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	0.04	2	0.08	7	0.28	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	40	0.74	4	0.40	18	1.80	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	2	0.04	-	-	2	0.04	43	0.91	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	3	0.03	21	0.24	145	1.69	-	-	18	0.90	-	-	-	-	2	0.25
愛知県	-	-	7	0.04	31	0.17	198	1.09	1	0.03	29	0.83	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	2	0.04	2	0.04	82	1.82	-	-	2	0.17	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	1	0.03	-	-	36	1.13	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	2	0.03	95	1.25	-	-	14	0.78	-	-	-	-	-	-
大阪府	9	0.05	16	0.08	21	0.11	232	1.20	1	0.02	21	0.40	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.01	7	0.05	19	0.15	124	0.97	2	0.06	35	1.00	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	32	0.91	31	0.89	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.03	1	0.03	4	0.13	13	0.42	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	8	0.42	24	1.26	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	1	0.04	17	0.74	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	2	0.04	3	0.06	30	0.56	-	-	13	1.08	-	-	1	0.20	-	-
広島県	1	0.01	3	0.04	11	0.15	79	1.05	-	-	18	0.90	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	2	0.04	5	0.10	86	1.76	-	-	7	0.78	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	2	0.09	1	0.04	24	1.04	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	0.03	-	-	44	1.38	-	-	14	4.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	2	0.05	48	1.23	-	-	16	2.29	-	-	-	-	-	-
高知県	1	0.03	2	0.06	107	3.45	13	0.42	-	-	6	2.00	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	7	0.07	7	0.07	86	0.82	268	2.55	-	-	34	1.42	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	1	0.04	3	0.13	57	2.48	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	3	0.06	40	0.83	8	0.80	34	3.40	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.04	2	0.04	26	0.53	191	3.90	-	-	21	2.33	-	-	1	0.07	4	0.27
大分県	1	0.03	1	0.03	57	1.63	34	0.97	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	2	0.05	3	0.08	28	0.76	-	-	22	5.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.02	6	0.10	28	0.47	28	0.47	-	-	16	2.67	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	3	0.09	16	0.47	34	1.00	-	-	8	0.80	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年6週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	56	0.12	6	0.01	26	0.06
北海道	2	0.09	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	2	0.10	-	-	1	0.05
宮城県	7	0.58	1	0.08	-	-
秋田県	3	0.38	-	-	-	-
山形県	1	0.11	-	-	1	0.11
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	2	0.40	-	-	-	-
山梨県	2	0.20	-	-	-	-
長野県	1	0.09	4	0.36	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-
三重県	5	0.56	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	1	0.13	-	-	-	-
兵庫県	1	0.07	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	5	1.00	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	0.20
広島県	3	0.14	-	-	-	-
山口県	1	0.11	1	0.11	-	-
徳島県	3	0.50	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	4	0.67	-	-	-	-
高知県	4	0.50	-	-	14	1.75
福岡県	1	0.07	-	-	3	0.20
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	3	0.30
宮崎県	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第6号 平成13年2月23日発行  
 発行：国立感染症研究所  
 厚生労働省健康局結核感染症課  
 厚生労働省大臣官房統計情報部  
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
 T E L : 03-5285-1111  
 F A X : 03-5285-1129  
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>  
<http://www.mhlw.go.jp/>  
 <厚生労働省>  
<http://www.forth.go.jp/>  
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。